

金融広報中央委員会会長 就任挨拶

「金言」の重み

金融広報中央委員会 会長 吉國 眞一



もつ人の心によりて宝とも仇ともなるは
黄金なりけり（昭憲皇太后）

7月1日に、金融広報中央委員会会長を
拝命しました。終戦後に「貯蓄増強中央委
員会」として設立された当委員会は、その
後名称を変えながら、一貫して社会におけ
る「おカネ」の役割についての啓発活動を
果たしてきた組織です。金融界に身を置き
つつ、大学の非常勤教員として金融教育の
現場にも接してきた経験を活かして、少し
でもお役に立てればと思っております。

その教員として日ごろ感じていたのは、世
代間のギャップでした。当委員会の発足とほ
ぼ同時期に生まれ、「戦争を知らない子ども
たち」と呼ばれた私たちの世代は、高度成
長と高金利を子どものころに経験しています。
一方、物心ついでから預金金利がほぼゼロ

で推移してきた現代の若者は「金利を知ら
ない子どもたち」でしょう。金融教育の世

界に「72の法則」というのがあります。複
利計算で元金が2倍になる年数は72を金利
で割ればほぼ近似できるといふもので、た
とえば金利8%なら9年（72÷8）であ
り、実際9年間でほぼ2倍になります。郵
便貯金の定額貯金金利が8%だったような
ころなら、具体的に説明しやすい法則でし
た。しかしこれを現在の預金金利に適用す
ると、2倍に達する期間は軽く千年を越え
ます。こうした状況で若者に貯蓄の役割や
複利の力を教えるのは容易なことではあり
ません。

そこで役に立つのが、感覚的に理解しや
すい名言です。おカネに関する名言ですか
ら、文字通り「金言」ということになります。

誰でも知っているベンジャミン・フランクリンの「時は金なり」、信用金庫の発展に
尽くした小原鐵五郎氏の「貸すも親切、貸
さぬも親切」、詠み人知らずの「いつまで
もあると思うな親とカネ、ないと思うな運
と災難」など、分かりやすくかつきわめて
深い含蓄を持った金言を授業で使うと、そ
れまで居眠りをしていた学生が急に興味を
示すといったことがたびたびありました。

なかでも私が愛読しているのが、冒頭に
掲げた明治天皇の皇后、昭憲皇太后の御歌
です。

「おカネとのつき合い方は、心が次第」
という教えは、リーマンショック、ユーロ
危機といったグローバルな問題から、「オ
レオレ詐欺」のような身近な話まで、おカ
ネに関するすべてに通用する真理と言える
のではないのでしょうか。昭憲皇太后は、「時
は金なり」のベンジャミン・フランクリン
を尊敬し、フランクリンの言葉を和歌に訳
して紹介されたこともあったそうです。ま
たこの歌に深く感銘を受けた「日本資本主
義の父」澁澤栄一からは「論語と算盤」、「士
魂商才」という金言が生まれています。時
代や洋の東西を超えて人びとの心に響くこ
れらの金言を金融教育の場でも活用してい
けないだろうかと思っております。